

安積合唱協会

ASAKA Chorverein

# 第30回記念定期演奏会

*The 30<sup>th</sup> Commemorative Concert*

Asaka Chorverein

# Welcome to Asaka Chorverein

本日はお忙しい中、第30回記念定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

今年も多くの皆様のご支援により本日の演奏会を開催できますことはこの上ない喜びであり、ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

当協会は、1992年の結成以来、中世・ルネサンス・バロック時代の甘く美しい教会音楽や古今東西の名曲を中心に演奏活動を続け、これまで合唱コンクールやアンサンブルコンテスト、県内外の合唱団の方々の共演、さらにはドイツ、オーストリア、フランスでの海外公演など幅広い演奏活動を重ねて参りました。

30回記念となる今回の演奏会では、安積合唱協会の原点であるルネサンス期・ロマン派の名曲から、日本の作曲家信長貴富の現代音楽、そしてロマン派ラインベルガーのミサ曲と、今回も様々な時代や地域を横断する多彩な作品をお届けします。

特に、第2ステージ、第3ステージでは、国内外で活躍中の弦楽演奏家の皆様による弦楽伴奏やオルガン伴奏による合唱をお聴かせいたしますので、ピアノ伴奏や無伴奏（ア・カペラ）とは異なる魅力をぜひご体感ください。またこの度、当協会指揮者であります宍戸真市を顧問とする安積高校合唱部の皆様や私共の音楽活動に共感くださる合唱愛好家の方々もステージに加わります。30回記念という新たな門出を飾るにふさわしい力強い共演にもどうぞご期待ください。

来たる新しい時代に、私たち自身がこれまで以上に元気に演奏活動を展開し、絆で結ばれた仲間と共に美しいハーモニーを創り上げ、皆様に届けていくことが合唱王国「ふくしま」の復興の軌跡になるものと信じています。

これからもメンバー相互そして皆様との絆を大切にしながら、これまで築き上げてきた演奏スタイルを基本に、優れた音律（チューニング）と各声部の完璧な調整（ブレンド）を備えたオンリーワン合唱団を目指して、安積合唱協会らしい響きを紡ぎ、つなぎ、そして伝えてまいりたいと思います。

最後に、本日の演奏会にあたり、ご来場いただきました皆様、協賛団体、賛助会員はじめ関係者の皆様に重ねて御礼申し上げ、あいさつとさせていただきます。

安積合唱協会



日時 / 2026年2月8日(日) 開場 / 13:30 | 開演 / 14:00

場所 / けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) 中ホール

主催 / 安積合唱協会

共催 / 郡山市、郡山市教育委員会、公益財団法人 郡山市文化・学び振興公社

後援 / 福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞社福島総局、

福島テレビ、福島中央テレビ、テレビユー福島、福島放送、

ラジオ福島、ふくしまFM、福島県合唱連盟、郡山市音楽連盟

# Today's Program

## 第1ステージ 安積合唱協会の原点 ～ルネサンスからロマン派の名曲～

### Sicut Cervus

鹿が谷川を慕いあえぐがごとく

ジョヴァンニ・ピエルルイー・ダ・パレストリーナ 曲  
Giovanni Pierluigi da Palestrina (ca.1525-1594)

### Dies Sanctificatus

聖なる日

ジョヴァンニ・ピエルルイー・ダ・パレストリーナ 曲  
Giovanni Pierluigi da Palestrina

### O Sonno

ああ、眠りよ

チプリアーノ・デ・ローレ 曲  
Cipriano de Rore (1515-1565)

ジョヴァンニ・デッラ・カーザ 詞  
Giovanni della Casa (1503-1556)

### Zum Abendsegen

夕べの祈り

フェリックス・メンデルスゾーン 曲  
Felix Mendelssohn Bartholdy(1809-1847)

### Abendlied

夕べのうた

マックス・レーガー 曲  
Max Reger (1873-1916)

指揮：宍戸 真市

～ 休憩15分 ～

## 第2ステージ 弦楽で歌う信長貴富作品

信長貴富(1971-) 作曲/編曲

### 群青

福島県南相馬市立小高中学校 平成24年度卒業生(構成:小田 美樹)詞  
小田 美樹 (1973-) 曲

### 祈ってもいいだろうか

谷川 俊太郎 (1931-2024) 詩

### 闇のなかの灯

村上 昭夫 (1927-1968) 詞

### リフレイン

覚 和歌子 (1961-) 詞

弦楽：記念演奏会スペシャルオーケストラ  
ピアノ：馬場田 あや乃 / 指揮：宍戸 真市

～ 休憩10分 ～  
～ 理事長挨拶 ～

## 第3ステージ ミサ曲八長調 作品169

ヨーゼフ・ラインベルガー 曲  
Josef Gabriel Rheinberger (1839-1901)

独唱：ソプラノ 志賀 香織 / アルト 宍戸 みゆき  
テノール 金成 聡司 / ベース 浦部 真平

弦楽：記念演奏会スペシャルオーケストラ  
オルガン：馬場田 あや乃 / 指揮：宍戸 真市

## 第1ステージ 安積合唱協会の原点

ジ ヨヴァンニ・ピエルルイージ・ダ・パレストリーナ  
Giovanni Pierluigi da Palestrina c.1525-94

パレストリーナはローマで活躍したイタリア人の作曲家です。ルネサンス期という、無伴奏の合唱が音楽の主流だった時代の最後を飾る代表的な存在です。

パレストリーナの音楽の大きな特徴、それは無理のない自然な流れから生まれる清らかで澄んだ響きと、均整(バランス)のとれたフォーム、つまり形的美しさにあります。「耳で聴く音楽に形があるのか？」と言われるかもしれませんが、ある種の音楽は、彫刻作品や工芸品の名作に相通じる要素を認めることができます。たとえば人物像の手足・顔などの各部分それぞれがしっかりと彫り込まれていて、そのうえでさらに全体のまとまりが表現されている、そういったことがあてはまる音楽もあるのです。

パレストリーナは、音楽の形的美しさを究め、特にキリスト教・カトリック教会の典礼で用いられる音楽の理想像を打ち立てた人として、後世の人々にあがめられました。本日演奏する2曲も、パレストリーナの特徴・魅力がよく表れています。ソプラノ・アルト・テナー・バスの4パートの間で対等にメロディーをやり取りしています。どのパートもたっぴりと歌い、なおかつ、全体が豊かに響きます。

Sicut Cervus  
「鹿が泉の水を望むように」

パレストリーナの作品の中でも特に親しまれているものです。いろんなグループの愛唱曲集にも収められているようです。それだけ歌いやすく、しかも美しい響きが魅力の名作です。旧約聖書の詩篇42番、神を渴望する想いを鹿に例えて、「水を望むように、私の魂はあなた、神を望みます」と歌います。

*Sicut cervus desiderat ad fontes aquarum:*

鹿が泉の水を望むように、

*ita desiderat anima mea ad te Deus.*

私の魂は、あなた、神を望みます。

Dies Sanctificatus  
「聖なる日」

「聖なる日」とは、クリスマスのことです。「今日、大いなる光が地に降りてこられた」という歌詞では、イエス・キリストが人類を照らす大いなる光であることが示されています。ここで「降りてこられた descendit」の言葉に下向きのメロディーがつけられ、なおかつソプラノからベースに受け継がれていくことに巧みさを感じることができるでしょう。また、最後の「歓喜しよう」からは3拍子となり、クリスマスを祝う気持ちが踊り出さんばかりに湧き上がる様子を捉えると同時に、カトリック教会で重要とされる聖三位一体が織り込まれています。

*Dies sanctificatus illuxit nobis,*

聖なる日、われわれに光が降り注ぐ、

*Venite gentes et adrate Dominum*

来たれ万人よ、主をほめ讃えよ。

*Quia hodie descendit lux magna in terris*  
なぜなら今日、大いなる光が地に降りてこられた

*Haec dies quam fecit Dominus*  
この日こそ主が用意された日

*Exsultemus et laetemur in ea.*  
歓喜し、この日を祝福しよう。

チ プリアーノ・デ・ローレ  
Cipriano de Rore 1515/16-1565

パレストリーナより少し年上の作曲家です。当時多くの音楽家を輩出したフランドル地方(現在のベルギー)の出身で、活躍の場はヴェネツィアやフェラーラなどのイタリア語圏でした。こうした出自や経歴は有名なジョスカン・デ・プレらと同様です。とにかくルネサンス期の音楽の世界では、フランドル出身者という、一目も二目も置かれていたようです。

さてローレは、イタリア語の詩に曲をつけた「マドリガーレ」という種目で特に名高い存在です。そこでは恋愛や人生についてのさまざまな想い・感情が歌われます。

O sonno  
「おお眠りよ」

本日演奏する「おお眠りよ」のテーマは「眠れない苦しみ」です。作詞者・ジョヴァンニ・デッラ・カーサ(*Giovanni della Casa 1503-1556*)が自ら経験したのでしょうか、一日の疲れを癒してくれるはずの眠りが訪れず、進みそうで進まない闇の時間の苦しさ、焦りを訴えています。

そんな歌詞にローレはどんな音楽を付けたのでしょうか。神への信仰を素直に表現したパレストリーナの音楽と比べてみてください。パレストリーナの調和、温雅、清澄といった要素とは正反対の言葉が並びます。ごつごつと尖ったメロディー、ハーモニーの唐突な進行、これらが歪んだ自己を反映しています。大げさに言えば、自分の負の感情をリアルに描き出すために、あえて美しさを犠牲にしています。この人間の生(なま)の感情を表現しようとするエネルギーが、数十年後、モンテヴェルディによって、オペラという新たなジャンルで開花したのでした。

*O sonno, o della queta 'humida ombrosa*  
おお眠りよ、静かで湿った陰鬱な…

*Notte placido figlio, o de'mortali*  
…夜の穏やかな子よ。おお、死すべき者(人間)にとって

*Egri conforto, oblio dolce de' mali*  
病める者を慰め、苦しみを甘く忘れさせてくれる眠りよ。

*Si gravi, ond' è la vita aspra e noiosa,*  
苦しみは重く、ゆえに人生は辛く退屈なものなのだ。

*Soccorri al cor homai che langu'e posa*  
さあ、助けてくれ、この衰え果てた心、休むことも…

*Non have, e queste membra stanch' e frali solleva.*  
…できない心を。この疲れ弱った手足を軽くしておくれ。

*A me t'envola, o sonno, e l'ali*  
眠りよ、私のもとへ飛んで来て、

*Tue brune sopra me distendi e posa.*  
その黒い翼を広げて私を覆い、憩わせてくれ。

*Ov' è'l silentio che'l di fugge e'l lume*  
どこにあるのか、昼が逃れ、光が消えるあの静寂は。

*E i lievi sogni che con non sicure*  
そして、確かな足取りもなく

*Vestigia di seguirti han per costume?*  
いつもおまえ（眠り）を追うのが習いの  
あの軽やかな夢たちはどこへ行ったのか。

*Lasso ch'in van ti chiamo e quest'oscur'e*  
ああ、むなしくおまえを呼び、

*Gelide ombre in van lusingo:*  
この暗く冷たい影をむなしくなだめようとするばかり。

*O piume d'asprezza colme,*  
おお、荒々しさに満ちた羽毛の寝台よ、

*O notti acerb'e dure.*  
おお、苦く厳しい夜よ。

## フリックス・メンデルスゾーン *Felix Mendelssohn Bartholdy 1809-1847*

メンデルスゾーンは当時忘れられていたバッハの音楽を積極的に採りあげ、「マタイ受難曲」の蘇演（復活演奏）を行ったことで知られています。そしてバッハの作品を紹介するだけでなく、自分の作曲の腕をみがくうえでも、バッハの楽譜を研究し、その成果を自作で示しています。

## Zum Abendsegen 「夕べの祈り」

この「夕べの祈り」は4つの声部が次々と追いかけるように 同じメロディーを歌っていきます。いわゆる対位法の技が使われていますが、これはバッハに範をとったものといえます。短いながらも厳粛な雰囲気漂う作品です。

*Herr, Herr!*  
主よ、主よ！

*Herr, sei gnädig unserm Fleh'n*  
主よ、わたしたちの祈りに恵み深くあらせられください。

*Und erfülle uns mit deinem Geist;*  
そしてあなたの霊でわたしたちを満たしてください。

*Herr, sei gnädig unserm Fleh'n*  
主よ、わたしたちの祈りに恵み深くあらせられください。

*Und schreib in unser Herz dein Gebot,*  
そしてわたしたちの心にあなたの法を書きこんでください。

*Herr, erhör uns!*  
主よ、わたしたち（の願い）を聞き入れてください。

*Und schreib in unser Herz dein heilig Gebot,*  
そしてわたしたちの心にあなたの聖なる法を書きこんでください。

*Herr, erhör uns!*  
主よ、わたしたち（の願い）を聞き入れてください。

## マックス・レーガー *Max Reger 1873-1916*

19世紀末から20世紀初頭、後期ロマン派と呼ばれる時代にドイツで活躍した作曲家です。後期ロマン派の音楽の特徴のひとつに、ハーモニー（和声）の移り変わりが複雑になっているということが挙げられます。ひんばんな転調や、半音の動きが連続するなど、ひとひねりもふたひねりもあるような音楽が盛んに書かれました。また、メロディーの面でも、延々と続いていくような、区切りがはっきりとしない傾向がみられます。

## Aabendlied 「夕べの歌」

「夕べの歌」と聞いて、どんな歌を想像しますか？「夕焼ナ小焼ナ」のような、素朴で懐かしいものでしょうか。

詩を読んでみると、色のイメージが頭に浮かびます。まず、ドイツの広大な森が、夕陽に映えて真紅（purpurrot）に染まります。次の詩節、今度は白い（weiße）霧が湖から立ち上ります。こんな自然の描写が続くかと思いきや、後半は詩人が自身を見つめます。「疲れた魂は、故郷へと急ぐ」。老いた自分＝人生の終盤を、一日の終盤である夕べに重ね合わせます。夕べの景色の見事さ、それは詩人に老後の「平安」を期待させます。それに続く夜の「甘い安らぎ」とあわせ、「故郷」へのあこがれが示されます。最終節で「故郷」とは「永遠の旅路で行き着く父の家」、つまり天国であることがわかります。

このように、この詩は伏線から回収への距離が長いという特徴があります。この詩を書いたのはプリンケ（August Heinrich Plinke 1855-1915）という人で、画家やジャーナリストとしても活躍した、なかなかマルチな才能を持っていたということです。

レーガーのこの曲も、無伴奏・6声部の編成が採用され、標準的な4声に比べ、より入り組んで複雑なハーモニーが展開されます。メロディーもまた、終わりそうで終わらない、そうかと思うといつの間に次次のステップに移っている、そんな感じですが、こういったところがちょうど、詩が持つ伏線と回収の距離の長さと同調を合わせる格好になっていることが興味深いところでしょう。

最後にもうひとつ。詩の途中で「あたりは静寂と沈黙だけ、私の耳には何の音も響かない」という歌詞が出てきます。「音がない」ということを、どういう「音」で表現するのでしょうか。それは聴いてのお楽しみ、それにしても、こんな詩に曲を付けるなんて、レーガー先生は相当なチャレンジャーですね。

*Leise geht der Tag zur Rüste;*  
静かに昼が日の入りに向かい、

*purpurrot zum letztenmal*  
ついに真紅に、

*glüht der Wald, als ob ihn küsste*  
森が輝く。まるでキスされたかのように。

*heiß der Sonne goldner Strahl.*  
太陽の熱い黄金の光線にキスされたかのように。

*Weißer Nebelschleier steigen*  
白い霧のベールが立ち上る。

*wallend aus dem See empor.*  
湖面から波打ちながら白い霧のベールが立ち上る

*Rings ist Stille nur und Schweigen,*  
あたりは静寂と沈黙だけ、

*und kein Laut klingt an mein Ohr.*  
私の耳には何の音も響かない。

*Und es streben alle müden*  
そして、あらゆる疲れた…

*Seelen nun der Heimat zu.*  
…魂は故郷へと急ぐ。

*Denn der Abend lockt mit Frieden*  
というのも、夕べはその平安で魂を（故郷へと）誘い、

*und die Nacht mit süßer Ruh.*  
夜は甘い安らぎで魂を（故郷へと）誘うからだ。

*Und in ferne Weltenweiten*  
遙か遠くの広い世界へと

*wogt die Seele mir hinaus,*  
私の魂は突き進んでいく。

*gleich als wollte sie bereiten*  
まるで備えているかのように、

*sich zum ew'gen Flug ins Vaterhaus.*  
まるで父の家（天国）への永遠の旅路に備えているかのように。

作曲しました。2013年3月の卒業式で歌うための曲でしたが、それに先立ち京都府長岡京市で開催された復興支援のコンサートで先生と生徒たちによって披露されたところ、大反響を呼びました。そしてコンサートに居合わせた信長が編曲を担当し、後に楽譜も出版され、多くの合唱団で歌われるようになりました。

この経緯からもわかるように、この曲は信長の作品という以上に、震災を経験した中学生と、彼らの成長を見守った先生の合作の成果と考えるべきでしょう。信長はこれに手を差し伸べ、翼をつける役割を果たした、といえます。

ところで、今回演奏する4曲のうち3曲が、コロナ禍や戦争経験・闘病生活、震災とそれに続く原発事故といった、苦難・絶望の中から生まれたものであることに気づきます。人はなぜ、「歌うのか」「詩を書くのか」「芸術という、一見無駄な営みを行うのか」。そんなことをふと、考えさせられる選曲だな、と感じ入りました。

ああ あの町で生まれて  
君と出会い  
たくさんの思い抱いて  
一緒に時間（とき）を過ごしたね  
今 旅立つ日  
見える景色は違っても  
遠い場所で 君も同じ空  
きっと見上げてるはず

「またね」と手を振るけど  
明日も会えるのかな  
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火  
いつでも君がいたね  
あたりまえが 幸せと知った  
自転車をこいで 君と行った海  
鮮やかな記憶が  
目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が  
僕らの中を過ぎて  
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声  
響け 遠くまでも  
あの空の彼方へも  
大切な すべてに届け  
涙のあとにも 見上げた夜空に  
希望が光ってるよ  
僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう  
あの町で会おう  
僕らの約束は  
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・

## 第2ステージ 弦楽で歌う信長貴富作品

### 信長貴富 / Takatomi Nobunaga 1971-

ある楽譜店の日本人作曲家による合唱曲コーナー。古今のたくさんの作曲家の作品があいいうえお順に並んでいます、とりわけ大きなスペースを占めているのが、信長貴富でした。それだけ多作であり、また人気があるということでしょう。親しみやすいメロディー、ポップスのコード進行にも通じる要素を持つハーモニーなど、歌う側も聴く側も素直に入っている、という点が魅力なのだと思います。

そうやって素直に入って、やがて気づくのが、詩に対する鋭い感覚が、信長の音楽の原動力となっているのは、ということです。早い話、彼の合唱作品を通じて、初めて知られるようになった詩人・詩作も数多いのではないのでしょうか。

さて、本日のステージでは、弦楽アンサンブルが伴奏に加わる形でお送りすることになりました。より多彩な音色で信長の世界が繰り広げられるのをお楽しみください。

### 群青(ぐんじょう)

2011年3月の震災をきっかけに生まれた歌のなかでも、とりわけその成り立ちが感慨深いのが、この「群青」です。南相馬市立小高中学校の2012年度卒業生(震災当時は1年生)が作詞、音楽教諭の小田美樹が

## 祈ってもいいだろうか

「祈ってもいいだろうか」。祈る、というある意味慎ましい行為にさらに輪をかけて遠慮するような態度。「祈り」を「躊躇する」、谷川俊太郎(1931-2024)の言葉の組み合わせはいつも、はっと驚かされます。

そして信長は、大胆にもこの曲で谷川の編んだ2つの詩を交錯させています。その2つの詩のタイトルは「草木に」と「声」。前者の最初の1行が「祈ってもいいだろうか」で、曲のタイトルとしてはこちらが採られています。

新型コロナ禍中の2021年6月に開催された、島根県合唱連盟の合唱祭のために作曲されました。「歌い続けることへの静かな決意を込めたピース(曲=筆者注)を作ることにした」と楽譜の序文に記しています。もしかすると、「祈ってもいいだろうか」には「歌ってもいいだろうか(いや、歌うのだ)」という気持ちが込められているのかもしれませんが。

### <草木に>

祈ってもいいだろうか  
草木に  
神が見当たらず  
祈ってもいいだろうか  
ただともに生きていきたいと  
無言の草木に  
祈ってもいいだろうか  
今日の陽の光を浴びて  
叶えられぬ明日を

### <声>

声がひそむ 水平線に  
声が届く 意味を越えて  
声がつまずく 意味の小石に  
声が沸く 意味がこぼれる  
声が瘦せる 文字にまで

『おやすみ神たち』(ナナロク社)所収

## 闇のなかの灯(ともしび)

詩人・村上昭夫(1927-68)は岩手県で生まれました。青年期に官吏として満州(中国東北部)に渡り、終戦時にはシベリア抑留という苛酷な経験をしました。命がけで帰国した後、不治の病とされていた肺結核を患い、故郷の療養所(サナトリウム)で暮らしながら詩作に励みました。優れた新進の詩人に贈られる「H氏賞」を受賞した1968年、41歳の若さで亡くなりました。

信長は、村上の詩から3編を選び、「禱歌(とうか)」と名付けて作曲しました。「祈りの歌」という意味なのですが、「とう」の字をよくご覧ください。旧字体が使われています。何か厳粛な、近寄りがたいイメージですね。近寄りがたいけども、それでもこの詩人の世界に向かわなければならぬ、近寄らなければならぬ、自分がその橋渡し役をする、そんなメッセージが込められているのでしょうか。

「闇のなかの灯」は、3曲のうちの最初の曲です。「讚美歌のような曲」と信長自身が言うように、素朴な味わいを感じます。

闇のなかに灯の歌はある  
あまりに遠い荒野なのだから  
あまりに深い沈黙なのだから  
灯がある限り  
人は真実を待つだろう  
灯が消えない限り  
人は思い出したように  
歩むのだ

※曲中では「歩むだろう」としています。  
『村上昭夫著作集 下』(コールサック社)

## リフレイン

「リフレイン」は、「繰り返し」を意味する英語 refrain から来ている言葉です。フランス語だと「ルフラン」ですね。詩の中では、「リフレイン」という言葉は使われておらず、「くりかえし」とひらがなで表記されています。そしてこの「くりかえし」という言葉そのものが、何度もくりかえされます。

では、この「くりかえし」は同じことをくりかえしているのでしょうか。詩を書いた覚和歌子(1961年生)は「そのたびに はじめまして」「どれだって ひとつきり」というフレーズを挟み込んで、「くりかえし」が単なる反復ではないと言っています。

この詩を音楽に乗せると、どのような表現が生まれるのか、耳を澄ましてみましょう。

くりかえし 咲くつぼみ  
くりかえし 実る枝  
  
くりかえし つもる雪  
くりかえし とける雪  
  
来る年も 来る年も  
そのたびに はじめまして  
そのたびに なつかしい  
  
くりかえし 寄せる波  
くりかえし 返す波  
  
くりかえす 雨の音  
くりかえす 夕映え空  
  
明くる日も 明くる日も  
似てるけど 似てるだけ  
どれだって ひとつきり  
くりかえし うたう鳥  
くりかえし まわる星  
  
くりかえし 見つめ合い  
くりかえし すきと言う  
  
何度でも くりかえす  
このときは たったいま  
このいまは いちどだけ

『海のような大人になる』理論社 所収  
※下線の部分は作曲されていません。

## 第3ステージ ミサ曲八長調 作品169

**ヨ**ーゼフ・ガブリエル・ラインベルガー  
*Josef Gabriel Rheinberger 1839-1901*

交響曲やオペラといった一般的なクラシック音楽のジャンルでは必ずしも有名ではありませんが、ある特定の分野では名人級の活躍をしている音楽家—ラインベルガーはそうした音楽家のひとりといえます。

スイスとオーストリアに挟まれたリヒテンシュタインに生まれ、7歳で教会のオルガンを弾きこなし、翌年には自作を演奏したそうです。12歳のときにミュンヘン音楽院に入学、以来終生この地で過ごすこととなります。

作曲家・オルガニスト・指揮者そして指導者として多方面に活躍しました。彼の指導を受けた中には『ヘンゼルとグレーテル』のフンパーディンクや前世紀の大指揮者フルトヴェングラーの名も見受けられます。

作曲家としても膨大な数の作品を残していますが、冒頭でも記したように、現在では主にオルガン曲と合唱曲が優れたものとしてよく採りあげられています。作風は「対位法を自家薬籠中とし、優美に流れるメロディーの泉は尽きることがなく、古典的な形式感に豊かな和声法を結びつけた伝統主義者」と評されています。19世紀のドイツ・ロマン派の流れでは、リストやヴァーグナーのような感情表現重視の立場とは一線を画しています。ブラームスに近いということになりますが、近い者同士であえて比較すると、ブラームスは剛、ラインベルガーは柔という印象です。ラインベルガー自身の言葉を聞いてみましょう。「音楽において第一に考えるべきことは、美しくあれということだ。美しく響かない音楽は私には何の魅力もない」

余談ですが彼の妻フランチスカは詩人でした。作詞＝妻・作曲＝夫という作品が数多くあり、音楽史上指折りのおしどり夫婦だったようです。

### ミサ曲について

ミサ曲とは…と説明するにはスペースも筆者の能力も足りませんので、こっそりウィキペディアを参照すると「カトリック教会のミサ(感謝の祭儀)に伴う声楽曲」と簡潔に定義されています。

音楽のジャンルという観点から筆者なりに整理すると、次のような特徴があるといえます。

- ①長い伝統＝14世紀に登場した作曲家、ギヨーム・ド・マシヨの「ノートルダムのミサ曲」以来、どの時代においても無数の作曲家が作曲している
- ②歌詞や楽章構成が共通＝カトリック教会が定めた典礼次第・典礼文に即したものであるため、どの時代・どの国で作曲されたものであっても、基本的には同一の歌詞(ラテン語)、楽章構成(「キリエ」に始まり、「アニュス・デイ」で終わる)となる

このような特徴をもったミサ曲というジャンルは、作曲家にとってみれば格好の腕の見せ所となるのではないのでしょうか。対して歌う側、聴く側は、歌詞を「ものさし」にして作曲家たちの比較ができるという楽しみがあります。

## ラインベルガーのミサ曲

ラインベルガーはミサ曲を数多く作曲しました。おそらく最も知られているのは無伴奏のダブルコーラスによる「変ホ長調 作品109 カントゥス・メッセ」でしょう。珍しいものにはオルガン伴奏を従えてソロで歌われる「ハ短調 作品62 子どもたちのミサ曲」というのがあります。元来、聖歌隊、つまり合唱が歌う前提でミサ曲が作曲されるはずですが、この曲の経緯は興味深いものがあります。

本日演奏する「八長調 作品169」は、オーケストラ伴奏が入った唯一の作品とされています。1891年、50代前半の頃の作品で、円熟した筆致が随所に見られます。

### <歌詞対訳とガイド>

#### 1. あわれみの賛歌 キリエ「主よ、あわれみたまえ」

2小節の短い前奏に続いて、合唱が「主よ、あわれみたまえ」と静かに歌い始めます。何回も繰り返して唱えていくうちに、気持ちが高まり、最初の頂点が現れます。短い間奏の後、新しい歌詞「キリストよ、あわれみたまえ」が今度は四重唱で歌われます。この四重唱は、ソリストの美声やテクニクを聞かせるというよりも、アンサンブルを味わってもらうことを主眼に作曲されているようです。やがて合唱も「キリストよ…」と続きます。

キリストへの呼びかけも繰り返されたあと、最初の「主よ(キリエ)」に戻ります。そしてまたいろんなパターンで繰り返されます。その間ずっと、優しく温かい響きで祈りの空間が満たされ、私たちはラインベルガー独特の世界に引き込まれます。

*Kyrie eleison.*

主よ、あわれみたまえ。(何回も繰り返す)

*Christe eleison.*

キリストよ、あわれみたまえ。(何回も繰り返す)

*Kyrie eleison.*

主よ、あわれみたまえ。(何回も繰り返す)

#### 2. 栄光の賛歌

##### 2-1 グローリア「天には栄光」

冒頭の1行、「グローリア～」は、ミサ曲によって扱いが異なります。この曲でのラインベルガーは、伝統的なやり方、司祭が唱える形(先唱)をとっていて、作曲をしていません。唱えるといっても、ちゃんとメロディーがあります。ローマ・カトリック教会で古くから歌われているグレゴリオ聖歌によるものです。

(先唱)

*Gloria in excelsis Deo.*

天のいと高きところには神に栄光あれ。

## 2-2 エティン・テラ・パクス「地には平和」

「グローリア」の章は、神を讃え、イエス・キリストに祈りをささげる内容です。きびきびと歯切れよく音楽が展開していきます。

*Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.*  
地には善意の人に平和あれ。

*Laudamus te. Benedicimus te.*  
われら主をほめ、主をたたえ、

*Adoramus te. Glorificamus te.*  
主をおがみ、主をあがめまつる。

*Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.*  
主の大いなる栄光のゆえに感謝したてまつる。

*Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater omnipotens.*  
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

*Domine Fili unigenite, Jesu Christe.*  
主なる御ひとりごイエズス・キリストよ、

*Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.*  
神なる主、神の小羊、父の御子よ、

*Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.*  
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ

*Qui tollis peccata mundi,*  
世の罪を除きたもう主よ、

*suscipe deprecationem nostram.*  
われらの願いを聞き入れたまえ。

## (四重唱)

*Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.*  
父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ

## (合唱)

*Quoniam tu solus sanctus.*  
主のみ聖なり。

*Tu solus Dominus.*  
主のみ王なり。

*Tu solus altissimus,*  
主のみいと高し。

*Jesu Christe.*  
イエズス・キリストよ。

## 2-3 クム・サンクトゥ・スピリトゥ「聖霊とともに」

「グローリア」の章の最後は、父である神や、神の子キリストとともに讃えられる聖霊が登場し、聖三位一体への讃美が繰り広げられます。ここでは多くのミサ曲が、メロディー(テーマ)をパート間で受け渡していくフーガの手法で作曲されています。ラインベルガーもまた、力強いテーマをまずテナーに配し、その後あちこちから湧き上がってくるように曲を進め、やがてクライマックスを迎えます。

*Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.*  
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。  
(何回も繰り返す)

*Amen.* アーメン。

## 3.信仰宣言

## 3-1 クレド「わたしは神を信じる」

## 3-2-1 エティン・ウナム「わたしはキリストを信じる」

前の楽章同様、先唱が置かれます。「わたしは信じる、唯一の神を」。以下、信じる内容が合唱(一部は四重唱)で歌われます。つまり、この章(3信仰宣言)ではキリスト教のエッセンスがまとめられていることとなります。

## (先唱)

*C*REDO in unum DEUM.  
わたしは信じる、唯一の神を。

## (合唱)

*Patrem omnipotentem,*  
全能の父、

*factorem caeli et terrae,*  
天と地の造り主、

*visibilium omnium,*  
すべての見えるもの、

*et invisibilium.*  
また見えないもの(の造り主(を信じる))。

*Et in unum Dominum JESUM CHRISTUM,*  
またわたしは信じる、唯一の主、イエス・キリストを

*Filium Dei unigenitum.*  
神のただ一人の御子、

*et ex Patre natum ante omnia saecula.;*  
世のすべてより先に、父より生まれた方、

*Deum de Deo,*  
神よりの神、

*lumen de lumine,*  
光よりの光、

*Deum verum de Deo vero.*  
真の神よりの真の神(である主イエスを信じる)。

*Genitum, non factum,*  
生まれたのであり、造られたのではない、

*Consubstantialem Patri:*  
父と一体である方、

*per quem omnia facta sunt.*  
この方によって、すべてのものが造られた。

*Qui propter nos homines*  
この方はわたしたち人類のため、

*et propter nostram salutem*  
またわたしたちの救いのため、

*descendit de caelis.*  
天からお降りになった。

### 3-2-2 エトウ・インカルナトウス 「肉体を受けられ」〔降誕〕

イエスの降誕(クリスマス)と受難の場面では、テンポを落とし、じっくりかみしめるように歌われます。

(四重唱)

*Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex Maria Virgine:*  
そして聖霊によって、おとめマリアから肉体を受け、  
*Et homo factus est.*  
人におなりになった。

### 3-2-3 クルーチフィクスウス 「十字架にかけられ」〔受難〕

(合唱)

*Crucifixus etiam pro nobis:*  
まさにわたしたちのために十字架にかけられ、  
*sub Pontio Pilato passus, et sepultus est.*  
ポンチオ・ピラトのもと、苦しみを受け、葬られた。

### 3-2-4 エトウ・レズレクシト 「3日目によみがえり」〔復活〕

イエスの復活。テンポが戻り、喜ばしい雰囲気の後、厳粛な心持ちで曲が進みます。

*Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.*  
そして聖書にあるように、3日目によみがえられ、  
*Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.*  
天へと昇られた。そして父の右に(今)座られている。  
*Et iterum venturus est cum Gloria*  
そして再び栄光に包まれつつおいでになり、  
*judicare vivos et mortuos:*  
生きている者と死者とを裁くであろう。  
*cujus regni non erit finis.*  
この方(主イエス)の御国の終わりはないであろう。  
—以上のことを、わたしは信じる。

### 3-3 エトウ・イン・スピリトゥム「聖霊を信じる」

イエスの物語が終わると、今度は「聖霊」と「教会」が信仰対象として述べられます。

*Et in SPIRITUM SANCTUM, Dominum, et vivificantem:*  
またわたしは信じる、聖霊を。主であり、命を吹き込む聖霊を。  
*qui ex Patre Filioque procedit.*  
聖霊は父子より現れ出て、  
*Qui cum Patre et Filio simul adoratur, et conglorificatur:*  
父と子と同様に崇められ、共に誉め讃えられ、  
*qui locutus est per Prophetas.*  
預言者達を通して(人々に)語ってきた。  
*Et unam sanctam catholicam et apostolicam ECCLESIAM.*  
またわたしは信じる、唯一の、聖なる、公の、使徒継承の教会を。

〔ここまでが3-1冒頭CREDO の目的語〕

### 3-4 コンフィテオル「洗礼を認める」

今まで、「父・子・聖霊、そして教会を信じる」と歌ってきました。ここでは、洗礼の意義が説かれたのち、死者たちの復活を「期待する」ことが表明されます。神と人との契約(give and take)という、キリスト教の特徴が表れていると思います。

*CONFITEOR unum baptismum in remissionem peccatorum.*  
わたしは認める、罪科の赦しとしての唯一の洗礼を。  
*Et EXPECTO resurrectionem mortuorum.*  
そしてわたしは待ち望む、死者たちの復活を。

### 3-5 エトウ・ヴィータム「来世での生命を」

この章の最後の1行で、音楽はがらりと変わり、輝かしく堂々とした響きとなります。歌詞に対するラインバルガーの思いが伝わってきます。

*Et vitam venturi saeculi.*  
そして来世での生命を(待ち望む)。  
*Amen.*  
アーメン。

### 4 感謝の賛歌 サンクトゥス「聖なるかな」

穏やかに始まりますが、次第に喜びの表情が増してきます。

*Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus Deus Sabaoth.*  
聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。  
*Pleni sunt coeli et terra gloria tua.*  
主の栄光は、天と地とに満ちている。  
*Hosanna in excelsis.*  
いと高きところに、オザンナ!  
(オザンナ=神を讃えて発せられる歓声)

### 5 祝福の賛歌 ベネディクトゥス「祝福あれ」

優美な四重唱が、ラインバルガーの特質をよく表しています。

(四重唱)  
*Benedictus qui venit in nomine Domini.*  
祝福あれ、主の御名によって来られる方に。  
(合唱)  
*Hosanna in excelsis.*  
いと高きところに、オザンナ!

## 6 平和の賛歌

## 6-1 アニウス・デイ「神の小羊よ」

アニウス・デイ(神の小羊)はイエス・キリストを指します。キリストに呼びかけ、救いを求めて祈ります。

*Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,*  
世の罪を除かれる神の小羊よ、

*miserere nobis.*

われらをあわれみたまえ。

*Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,*

世の罪を除かれる神の小羊よ、

*miserere nobis.*

われらをあわれみたまえ。

*Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,*

世の罪を除かれる神の小羊よ…

## 6-2 ドナ・ノービス「平和を与えたまえ」

ミサ曲を締めくくる歌詞は「平和を与えたまえ」という祈りです。ラインベルガーは、テノールから始まり、次々と他のパートにこの歌詞を歌わせます。そのメロディーが、鳥が大空に向けて羽ばたくような悠然としたもので、祈りがだんだん空に地に満ちていくように進んでいきます。

やがてソプラノがフォルティシモで最高音シトに達してからは、収束に向かい、最後は穏やかに全曲が閉じられます。

*Dona nobis pacem.*

われらに平和を与えたまえ。

## 解説・対訳 酒井 道宏

高校在学中、高麗正宣氏より音楽世界に導かれる。その後、音楽の理論面(音楽史、美学芸術学、表象文化論)を戸口幸策、皆川達夫、海老澤敏ほか諸氏に、実践面(声楽、解釈法、指揮法)を宮下正、前田幸市郎、大谷研二ほか諸氏に師事。さまざまな合唱団からの依頼を受けて歌詞対訳や解説を手がけるなど、合唱音楽の理論と実践を掘り下げて融合させることをライフワークとして活動中



私たちと一緒に歌いましょう！

## 歌う仲間募集中



公式HP



YouTube



X (旧Twitter)



Facebook



Instagram

- **入会資格** ある程度の合唱経験を持つ方(高校生・大学生も歓迎!)
- **練習日程** 月1~2回程度(土・日曜日や祝日)、10:00~16:30(昼休み1時間)  
主に郡山市内および近郊の練習会場で行います。(県内外の各方面からの相乗りも可能です!)  
練習回数が限られているので、譜読み等の個人練習を積んでから臨みます。  
コンクール、定期演奏会等の前は、少々練習回数が増えることがあります。
- **会費** 1ヶ月あたり一般 3,000円、大学生等 2,000円、高校生 1,000円 (正会員の場合)  
※最大1年間、会費が免除される「準会員」制度があります。制度を活用いただき合唱団の活動を体験ください。
- **主な活動計画** 定期演奏会、各種コンクール参加(宝塚、全日本)、市音連行事参加 他  
次回、第31回定期演奏会(2027年2月予定)にてモーツァルトのKV.220(雀のミサ)を演奏予定

安積合唱協会 (事務局)

E-mail: asaka.chorverein@gmail.com

Tel.090-3640-4322(金成)

## 記念演奏会スペシャルオーケストラ

Special String Orchestra

1<sup>st</sup> Violin志村 寿一 / *Hisaichi Shimura*  
コンサートマスター

マネス音楽大学に在学中、アーティスト・インターナショナル・オーディションに入賞し、カーネギー・ワイル・リサイタルホールにおいてデビュー・リサイタルを行う。マネス・コンペティションで優勝し、音楽学士、修士と共にベスト・パフォーマンス賞を得て同大学を卒業。現在、桐朋学園芸術短期大学・特任教授を務める。

2<sup>nd</sup> Violin加藤 えりな / *Erina Kato*

東京芸術大学附属高校を卒業後パリへ留学。パリ国立高等音楽院をヴァイオリン、室内楽ともにプルミエ・プリを得て卒業。国際コンクールでの受賞歴多数。南西ドイツフィルハーモニー、東京都交響楽団などと共演。東京芸術大学演奏講師。

柏原 悠 / *Yu Kashiwabara*

郡山市出身。3歳よりヴァイオリンを始め、安積黎明高校、東京音楽大学卒業。現在、オーケストラ奏者として主に客演で演奏活動を行うほか、100万人のクラシックライブの演奏家として各地で演奏している。故郷での演奏も数多く、津波ヴァイオリンによる演奏に携わった経験を持つ。

戸村 実咲 / *Misaki Tomura*

福島市出身。国立音楽大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。在住している千葉にて室内アンサンブル「アンサンブルロータス」を、クラリネット久松響子と共同主宰。千葉市拠点に活動。出身の福島では福島チェンバーオーケストラメンバーとして活動。

松野 愛梨 / *Airi Matsuno*

郡山市出身。二瓶真実子、青木高志、土屋杏子、永峰高志の各氏に師事。安積高等学校を経て、国立音楽大学を卒業・弦楽器ソリストコース修了、卒業演奏会に出演。第22回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール第5位。第2回、第6回日本学校合奏コンクールソロ&アンサンブルコンテストソロ部門金賞。

桜井 雅彦 / *Masahiko Sakurai*

福岡大学工学部卒業後、大分芸術文化短大、同専攻科にて4年間学ぶ。その後、尚美学園大学院修了(学費免除特待生)。都内にてレコーディングワークを中心に行う。“THEカルテット”のメンバーとして昭和歌謡コンサートに年間150公演以上参加。大阪万博にて式典演奏を担当。

あさい まり / *Mari Asai*

名古屋市立菊里高校音楽科、東京音楽大学卒業。

数多くのコンサート&レコーディングに奏者として携わりながら、近年では作曲家としても活動している。また個人作品の制作&発表を精力的に行い、国内外にて活動を展開している。

石川 仁保 / *Niho Ishikawa*

郡山市出身。3歳よりヴァイオリンを始める。郡山女子大学短期大学部音楽科ヴァイオリン専攻卒業。これまでに、メソードの先生方、牧田さゆり女史、浦川宜也氏、坂井玲子女史、大川内弘氏に師事。郡山市民オーケストラコンサートマスター。100万人のクラシックライブ会員。元郡山女子大学短期大学部音楽科非常勤講師。

## Viola

## 叶澤 尚子 / Naoko Kanozawa



福島県いわき市出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。2025年3月まで名古屋フィルハーモニー交響楽団首席ヴィオラ奏者を務めたのち、現在はヴィオラ奏者として各地のオーケストラなどでゲスト奏者として演奏するほか室内楽にも積極的に取り組み後進の指導にもあたっている。

## 田口 厚子 / Atsuko Taguchi



白河市出身。武蔵野音楽大学ヴィオラ専攻卒業。これまでに弦楽ユニットで7枚のアルバムをリリース。

国内外のアーティストサポート、オーケストラや室内楽等活動する傍ら、後進の指導にあたる。ヴィオラを磯良男、J. ウェーバーの各氏に、室内楽を磯良男、菅原英洋、西田博の各氏に師事。

## 坂本 晴人 / Haruto Sakamoto



秋田県大曲市出身。小学校から8年間部活でオーボエを担当。16歳でヴィオラを始める。兎束俊之氏に半ば強引に弟子入りし楽器の構え方から教わる。これまでにヴィオラを兎束俊之、村山弘、大久保淑人の各氏に師事。2004年ハンブルクにてヤン・ラーゼン氏に指導を受ける。現在は関東、東北を中心にフリーランスで活動中。

## Violincello

## 奥村 景 / Kei Okumura



桐朋学園大学卒業。05年新潟室内合奏団とハイドンの協奏曲、19年同団とブラームスの二重協奏曲を共演。

2012年大阪国際音楽コンクール・デュオ部門で3位(1位なし)受賞。今までにチェロを渋谷陽子、毛利伯郎の各氏に師事。現在、オーケストラ、室内楽、後進の指導など、多岐に活躍中。

## 五十嵐 陽 / Yo Igarashi



武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科卒業。ウラディミール・アシュケナージ指揮のプロジェクトに選抜メンバーとして共演。豪華客船にて船内アーティストとして演奏、好評を博す。これまでにチェロを青柳善美、クレメンズドル、北本秀樹の各氏に師事。そのほか、小・中・高校などで後進の指導にも力を入れている。株式会社A楽器代表。

## 榊原 彩 / Aya Sakakibara



桐朋学園大学音楽学部卒業。1991年～2015年在仏。室内楽および現代音楽合奏団などでコンサート活動する。2015年に帰国。郡山にて演奏活動と後進の指導にあたっている。福島チェンバーオーケストラメンバー。

## Contrabass

## 河原田 潤 / Jun Kawarada



福島市出身。武蔵野音楽大学大学院音楽研究科(コントラバス専攻)修了。大学院在学中、福井直秋記念奨学生となる。日本各地で演奏活動を積極的に展開しておりアンサンブル・エスプレッソ、東京バッハ・カンタータ・アンサンブル、ムジカ・アクターナのメンバー。常葉大学短期大学部保育科(音楽科兼任)准教授を経て、現在、会津大学短期大学部幼児教育学科教授。



## 常任指揮者 宍戸 真市

*Permanent Conductor*

福島県福島市出身。1999年、国立音楽大学音楽教育学科音楽教育専修を首席で卒業。卒業時に岡本賞受賞。ピアノを内海咲子、小林美樹、岡田隆郎、声楽を伊藤勲、砂川稔、渡辺多津彦、指揮を今村能、小塚類の各氏に師事。2006年、湯本高等学校に赴任。同校合唱部及び吹奏楽部の指導にあたる。07年、福島県合唱連盟60周年記念青少年合唱団のバスパートリーダーを歴任。10年、安積黎明高等学校に赴任。同合唱団を指揮し、全日本合唱コンクール全国大会で金賞5回(11年文部科学大臣賞)、銀賞2回、銅賞1回受賞。この間、Nコン全国コンクールに6回出場し、金賞・内閣総理大臣賞を1回、銀賞1回、銅賞2回、優良賞2回受賞。声楽アンサンブルコンテスト全国大会に4回出場し、いずれも高校部門で金賞を受賞、本選で総合3位1回、総合4位1回、入賞2回受賞。また、同校クラシック部を指揮し、全国学校合奏コンクール全国大会で奨励賞を受賞。



17年、福島県合唱連盟創立70周年記念青少年選抜合唱団(Fukushima Youth Choir)のバスパートのリーダーを務め、ウィーンおよびザルツブルクの欧州公演に参加した。また、安積合唱協会を指揮し、12年全日本全国大会一般部門で銅賞を受賞。25年、福島県立安積高校に赴任。合唱部の指導にあたる。

これまでに、教育文化関係・優秀教職員表彰(17福島県教育委員会)、福島県合唱連盟表彰(17福島県合唱連盟)、文部科学大臣優秀教職員表彰(18文部科学大臣)、全日本合唱連盟東北支部表彰(19全日本合唱連盟東北支部)を受賞。

現在、福島県合唱連盟事務局長。安積高校教諭。安積合唱協会、会津女声合唱団「ラ・フローラ」常任指揮者。

## オルガン/ピアノ 馬場田あや乃

*Organ & Piano*



福島県郡山市出身。福島県立安積黎明高等学校を経て福島大学音楽科卒業、同時に学長賞受賞。同大学院音楽科を修了し、学長賞受賞。

第12～18回東北青少年音楽コンクールにて7年連続最優秀賞、第8回栃木県ピアノコンクールにて全部門最高位の栃木県知事賞、併せて日本人作品最優秀演奏者賞、第11回東京ピアノコンクール第1位等、多数のコンクールで上位入賞。ヤマハ音楽能力検定ピアノ演奏グレード2級取得。これまでに多数のソロリサイタルを開催。

現在、ヤマハ音楽教育システム講師として後進の指導にあたる傍ら、福島県内の学校・一般団体の合唱団の伴奏ピアニストとしても活動している。

# 安積合唱協会について

## About Asaka Chorverein

安積合唱協会は、福島県郡山市を拠点とする一般の混声合唱団です。

1992年に中世・ルネサンス・バロック時代の合唱曲を演奏することを目的に設立されました。会員は、公務員・会社員・学生など職業や年齢層が多様で、月に1～2回の定期練習を通じて、優れた音律と各声部の調和を目指しています。

年に1回の定期演奏会を中心に、海外公演や各種コンクールにも積極的に参加しています。これまでにオーストリアやフランスの海外で演奏会や全日本合唱コンクールや声楽アンサンブルコンテストなどに参加し実績を残しています。また、他団体とのジョイントコンサートなど、全国の合唱団と交流を深めています。

近年は古楽の魅力にとどまらず、ロマン派や現代曲にも挑戦しています。パレストリーナやビクトリア、モンテベルディ、トマス・タリスなどの古楽から、ブラームス、ブルックナー、ラインベルガーなどのロマン派の作品、信長貴富や千原英喜による日本語の合唱曲など、幅広いレパートリーを演奏しています。安積合唱協会は、歌うことの喜びと、音楽の力で人と人をつなぐことを大切に活動しています。

## 役員

### Executive Committee

理事長	宍戸 みゆき	パートリーダー	
副理事長 兼 事務局長	金成 聡司	ソプラノ	志賀 香織
総務担当理事	志賀 一郎	アルト	宍戸 みゆき
企画担当理事	阿久津 光美	テノール	古川 隼斗
経理担当理事	笹島 緑	ベース	浦部 真平
指揮	志賀 香織	監事	数馬 雅子

## メンバー

### Members of choir

### ソプラノ *Soprano*

志賀 香織	浦部 智子	数馬 雅子	神保 明子	阿久津 光美
加藤 順子	笹島 緑	乙高 宣子	齋藤 順子	
栗原 歩花※2	吉田 羽花※2	山田 せり※1	古内 咲月※1	瓜生 麻央※1

### アルト *Alto*

宍戸 みゆき	山本 清子	櫻村 貴久子	関根 久美子	関 由紀子
佐藤 康子	蓮實 裕子*			
菊地 美佑※2	吉田 妃奈乃※2	若林 佳純※2	吉田 真希※1	渡邊 心花※1

### テノール *Tenor*

古川 隼斗	曳地 利光	金成 聡司	菅家 拓郎	長嶋 航希*
山口 郁※1	乾 蒼一郎※1			

### ベース *Bass*

浦部 真平	渡辺 均	志賀 一郎	影山 洋一	千葉 真実
熊澤 一正	山内 健広	東 知樹		
菊地 瞳輝※1				

( \*印は一般賛助、※印は安積高校合唱部、数字は学年)

## 安積合唱協会のあゆみ

History

1992(H4)	5月	設立総会
1993(H5)	3月	第1回 定期演奏会(安積歴史博物館講堂)
	12月	第2回 定期演奏会(安積歴史博物館講堂)
		第1回 海外公演(ウィーン、ザルツブルク、ミュンヘン)
1995(H7)~ 2000(H12)	3月	第3回~第8回定期演奏会(郡山市内)
1999(H11)	1月	第2回 海外公演(マルセイユ、ラシオタ、アヴィニョン) 福島県合唱コンクール及び全日本合唱コンクール東北支部大会出場(銀賞受賞)
2000(H12)	3月	特別公演(会津若松市・会津アピオ内(株)共立土建コンサートホール)
2001(H13)	3月	第9回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	9月	第55回 福島県合唱コンクール(福島市音楽堂大ホール) 金賞
		第54回 全日本合唱コンクール東北支部大会(盛岡市民文化ホール大ホール) 金賞
	12月	第10回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
2002(H14)	9月	第56回 福島県合唱コンクール(矢吹町文化センター大ホール) 金賞
		第55回 全日本合唱コンクール東北支部大会(青森市文化会館大ホール) 銀賞
2003(H15)	1月	第11回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
	8月	第57回 福島県合唱コンクール(いわき市平市民会館大ホール) 金賞 高野賞
	9月	第56回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館大ホール) 銅賞
2004(H16)	1月	第12回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
	8月	第58回 福島県合唱コンクール(原町市民文化会館大ホール) 金賞
	9月	第57回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール) 銀賞
	11月	やまぐち県民文化祭アカバラフェスティバル招待演奏(秋吉台国際芸術村ホール)
		海外公演記念演奏会(福島市音楽堂大ホール)
	12月	第13回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
		第3回 海外公演(アイゼンシュタット、フオラウ)
2005(H17)	3月	法政大学アカデミー合唱団福島公演賛助出演(福島市音楽堂大ホール)
	8月	第59回 福島県合唱コンクール(喜多方プラザせせらぎホール) 金賞 三浦賞 福島県教育長賞
	9月	第58回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール) 銀賞
	12月	第14回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2006(H18)	9月	第60回 福島県合唱コンクール(福島県文化センター大ホール) 金賞
	10月	第59回 全日本合唱コンクール東北支部大会(名取市文化会館大ホール) 銀賞
	12月	第15回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2007(H19)	9月	第61回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
		平成19年度 全日本合唱コンクール東北支部大会(青森市文化会館大ホール) 金賞
	12月	第16回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
		第24回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
2008(H20)	3月	第1回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	6月	郡山市民合唱団定期演奏会賛助出演(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第62回 福島県合唱コンクール(南相馬市文化会館大ホール) 金賞
	9月	第60回 全日本合唱コンクール東北支部大会(岩手県民会館大ホール) 金賞
	12月	平FG合唱団定期演奏会賛助出演(いわき芸術文化交流館アリオス音楽小ホール)
		第25回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
2009(H21)	3月	第2回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	6月	第17回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第63回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール) 銀賞
	9月	第61回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館大ホール) 銀賞
	12月	第26回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
2010(H22)	6月	第18回 定期演奏会(郡山市民合唱団賛助出演)(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第64回 福島県合唱コンクール(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	9月	第62回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール) 銀賞
	12月	第27回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
2011(H23)	7月	第27回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガホール) 総合3位(ルネサンス・バロック部門金賞)
	8月	第65回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂大ホール) 金賞
	9月	第63回 全日本合唱コンクール東北支部大会(岩手県民会館大ホール) 金賞
	12月	第28回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
2012(H24)	2月	第19回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)
	3月	希望の歌声合唱フェスティバル2012(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール)
		第5回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 優良賞
	7月	第28回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞、ロマン派部門銅賞
	9月	第66回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
		第64回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
	11月	第65回 全日本合唱コンクール全国大会(富山市芸術文化ホールオーバードホール) 銅賞
	12月	第29回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞

2013(H25)	2月	第20回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	3月	Harmony for JAPAN 2013(京都府長岡京市文化会館) 第6回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール)優良賞
	7月	第29回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)ルネサンス・バロック部門銀賞
	9月	第67回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール)銀賞 第65回 全日本合唱コンクール東北支部大会(宮城県仙台市イズミティ21)金賞
	11月	第3回 ハーモニーコンサート(郡山市民文化センター大ホール)
2014(H26)	12月	第30回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)銅賞
	3月	Harmony for JAPAN 2014(京都府長岡京市文化会館)
	4月	第21回 定期演奏会 振替公演(郡山中央図書館 視聴覚ホール)
	7月	第30回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)ルネサンス・バロック部門銀賞
	8月	第68回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂)金賞
2015(H27)	9月	第66回 全日本合唱コンクール 東北支部大会(リンクステーション青森)金賞
	12月	第31回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)金賞 全国推薦 第5回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター大ホール)
	1月	安積合唱協会・京都バツハ合唱団ジョイントコンサート 第22回 定期演奏会(郡山市民文化センター大ホール)
	3月	第8回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール)銀賞
	7月	第31回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)ルネサンス・バロック部門出場
2016(H28)	8月	第69回 福島県合唱コンクール(福島県文化センター)金賞
	9月	第67回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館)銀賞
	11月	第6回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター中ホール)
	12月	第32回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)銀賞 全国推薦
	2月	第23回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)
2017(H29)	3月	第9回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール)優良賞 Harmony for JAPAN 特別公演 口短調ミサ演奏会(東北大学100周年記念会館)
	9月	第70回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール)銀賞 第68回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール)銀賞
	10月	2016希望郷いわて国体開会式(岩手県北上市)
	11月	京都バツハ合唱団特別演奏会 J.S.バツハ「口短調ミサ」(大阪市いずみホール)
	12月	第33回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)銅賞
2018(H30)	2月	第24回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)
	7月	第33回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)ルネサンス・バロック部門出場、ロマン派部門出場
	9月	第71回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール)銀賞
	10月	第69回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール)金賞
	11月	第8回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター中ホール)
2019(H31/R1)	12月	第34回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)銀賞
	2月	第25回 定期演奏会(郡山市民文化センター大ホール)
	9月	第72回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂大ホール)金賞 第70回 全日本合唱コンクール東北支部大会(多賀城文化センター大ホール)金賞
	12月	第35回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(伊達ふるさと会館大ホール)銅賞
	2月	第26回 定期演奏会(けんしん郡山文化センター大ホール)
2020(R2)	7月	第35回宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)ロマン派部門銅賞
	9月	第73回 福島県合唱コンクール(とうほうみんなの文化センター)銅賞
	11月	郡山音楽フェスティバル(けんしん郡山文化センター中ホール)
	12月	第36回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(ふくしん夢の音楽堂大ホール)銅賞
	2月	第27回 定期演奏会(けんしん郡山文化センター中ホール)
2021(R3)	3月~	新型コロナウイルス感染症による活動自粛
2022(R4)	11月	郡山音楽フェスティバル(けんしん郡山文化センター中ホール)
2023(R5)	12月	第39回福島県声楽アンサンブルコンテスト(ふくしん夢の音楽堂)銀賞
	3月	4人の指揮者によるチャリティコンサート出演(けんしん郡山文化センター)
	7月	第38回宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)混声部門
	8月	第77回福島県合唱コンクール(ふくしん夢の音楽堂)銅賞
	11月	郡山音楽フェスティバル(けんしん郡山文化センター中ホール)
2024(R6)	12月	第40回福島県声楽アンサンブルコンテスト(ふくしん夢の音楽堂)銀賞
	2月	福島県合唱連盟県南支部合唱塾修了コンサート出演(メグレズホール) 第28回定期演奏会(けんしん郡山文化センター中ホール)
	8月	第78回福島県合唱コンクール(けんしん郡山文化センター)出場
	12月	第41回福島県声楽アンサンブルコンテスト(ふくしん夢の音楽堂)銀賞
	2月	第29回定期演奏会(けんしん郡山文化センター中ホール)
2025(R7)	3月	Harmony for JAPAN 2025 in 京都・長岡京(京都府長岡京市文化会館)
	4月	徳成寺慰問演奏(福島県郡山市安積町)
	7月	第40回宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ベガ・ホール)混声部門銅賞
	8月	第79回福島県合唱コンクール(いわきアリオス)銅賞
	11月	郡山音楽フェスティバル(けんしん郡山文化センター中ホール)

楽器・楽譜・音響機器・中古楽器・カルチャ-教室・ピアノ調律  
管楽器リペア・音響機材レンタル・楽器運搬・レンタルスペース



須賀川市八幡山251-1 (国道4号線大黒町交差点鏡石方面へ300m左側)  
TEL 0248-73-2223 onkan@abelia.ocn.ne.jp

創業243年  
伝統と信頼の大型きもの専門店



いわき 福島店 福島市中町1-9 TEL.024-521-2002  
いわき 郡山店 郡山市中町15-32 (中町立立体駐車場1階・振袖の館) TEL.024-922-5291  
【いわきグループ】  
トータルフォトスタジオよこら 福島店 福島市中町6-28 TEL.024-515-3771  
トータルフォトスタジオよこら 郡山店 郡山市中町15-28 TEL.024-991-0131  
〈営業時間〉AM10:00→PM6:30 〈定休日〉火曜日  
URL <https://www.kimono-iwaki.com/> 振袖専門店いわき 検索



Hiroshi Kazuma  
Internal Medicine and Cardiology Clinic

〈郡山市菜根・薫小学校南側〉

# かずま医院

内科 / 循環器科 / 呼吸器科 / 外科

		月	火	水	木	金	土
診療時間	午前	9:00~12:00	●	●	●	●	●
	午後						

休診日 / 月曜、日曜・祝日、水曜午後

院長 / 医学博士 数馬 博

〒963-8862 郡山市菜根一丁目15-2  
Tel.024-934-7750 Fax.024-934-7850



一般財団法人慈山会医学研究所付属

# 坪井病院

理事長 坪井永保 院長 杉野圭史

〒963-0197  
福島県郡山市安積町長久保一丁目10番地13  
電話 024-946-0808  
<https://www.tsuboi-hp.jp/>



# 折笠ピアノ教室

生徒随時募集中

幼児～大人まで 保育士志望の方

講師 折笠さゆり



見学、無料体験、実施しております

郡山市日和田町字日向111(日和田小学校近く 北側)

TEL 080-2817-2090

楽器の知識、特徴を知り尽くした経験豊富なスタッフが  
お客様のニーズにお応えいたします。



管弦打楽器専門店



KORIYAMA (main)  
〒963-8877 福島県郡山市堂前町27-10  
TEL 024-922-1094 FAX 024-922-2180  
OTAWARA (branch)  
〒324-0057 栃木県大田原市住吉町2丁目  
19-13 野州ビル1F-A  
TEL 0287-46-5107 FAX 0287-46-5108  
<http://noa.music.coocan.jp/>  
Mail : info@noa-gakki.jp



# 白河厚生総合病院

受付時間: 8:00~11:30(診療科、曜日により異なります)

〒961-0005 福島県白河市豊地上弥次郎2-1 TEL:0248(22)2211



—PET・CT がん検診を実施しております—

- 白河訪問看護ステーション
- 居宅介護支援事業所
- 農村健診センター
- 付属高等看護学院
- PET 画像診断センター



安積合唱協会 第30回記念定期演奏会  
 月協賛団体・会員 御芳名 (敬称略)

株式会社PSP (6口)  
 渡辺 正恵 (2口) 曳地 秀 (2口) 東 潔 (2口)

平FG合唱団 (2口) いわき市役所混声合唱団 (2口)  
 和風居酒屋かどや 新白河駅前店 (1口)  
 佐藤 禮子 (1口) 熊澤 美雪 (1口) 金成 文恵 (1口)

# ASAKA Chorverein

<https://www.asakachorverein.com>